

V テーマ別セッション討議概要

テーマ別討議概要

第1セッション「森林保護及び植林」

セッション議長：Mr.Hong Yong(中国)

【発表者】

中国	国家環境保護総局自然保護司副司長	Mr. Guotai Zhuang
韓国	韓国環境運動連合(KFEM)国際セクションチーフ	Ms. Kim Choony
モンゴル	自然環境省ジオ・エコロジー研究所部長	Mr. J. Tsogtbaatar
日本	北海道大学低温科学研究所教授	福田 正巳
ロシア	ロシア連邦自然保護研究所所長	Dr. Andrei S. Peshkov

日本(田口)：中国に対し2つの質問ある。① 洪水や不作、飢饉などの重大な問題への対策として住民には何年間資金的な補償をするのか？ ② 森林減少により作物収穫が減少しているということだが、植林をすると却って水不足となると聞いているが、そのメカニズムはなにか？ 水と森林の関係について、蒸発などによる影響とこれに対する特別の考え方があればそれを聞きたい。

中国：{一部聞き取り不能}

日本の第2の質問について、水源がどこであるかが重要である。水資源の保全、低地では排水が問題となっている。エコプロジェクトにより、草地と森林を分けている。60の保護地区があり、対策は地域によって異なる。

モンゴル：中国の食物の輸出政策について伺いたい。

中国：中国は、食料輸出国から輸入国に転じた。食物の話は、貿易問題である。

ロシア(Peshkov)：国際的な砂漠化対策が進められており、アジアでは、中国、インド、パキスタンなどで協力のネットワーク活動があると思うがどうか。

日本(加藤)：国際砂漠化防止についてのいくつかのネットワークがある。アジアの砂漠についてもフォーカルポイントがあり、砂漠化防止対策としての森林保護および植林活動が行われている。

韓国(Kim Choony)：森林火災のリカバーは、エコロジストの言うように自然的回復を待つのがよいのか、住民や学者の意見のように人工的に回復させたらよいのか？

福田：土壌によって異なる対策を取るべきである。タイガでは200年サイクルで山火事などが繰り返されている。自然に起る火事は、それによりミネラルが補給されるので何もしないほうが良いだろう。しかし、頻繁な火事には対策をとる必要がある。200年を超えると森林はCO₂の吸収源とはなりえない。火事がシビアな場合は、土壌や湿度が変わるので早急な対策が必要となる(土壌は10-20年で回復する)。タイガでは、火事が200年サイクルで起こり、CO₂が排出され、ミネラルが補給され、次に新しい木が生えてくる。現在ロシアの火災の90%は人為的な火事であり、サイクルが20年程度になっている。我々は被害の程度によって対策をたてるべきである。

第2セッション「水質汚濁と浄化」

セッション議長：加藤 久和

【発表者】

中国	国家環境保護総局水環境管理課長	Ms. Hongzhi Liu
韓国	国立環境研究院主任研究官	Dr. Han Gee Bong
日本	国立環境研究所地域環境研究グループ総合研究官	稲森 悠平
ロシア	ロシア連邦自然保護研究所所長	Dr. Andrei S. Peshkov
モンゴル	自然環境省政策調整執行部オフィサー	Mr. D. Batbayar

ロシア(Peshkov)：プレゼンテーションに対し、次の通り追加する。

- ① 水の情報が不足している。水汚染の情報交換、国際機関の協力が必要。
- ② ロシア、モンゴル、中国、韓国と続く森林の回廊保護地区設定を提案する。
- ③ 日本を除いた、ロシア、モンゴル、中国、韓国の河川の水汚染問題を共同で対処する必要がある。

韓国(Kim)：国境を超えた問題の対処について(日本を除く、ロシア、モンゴル、中国、韓国)は共通の水資源を利用しているので協力して行う必要がある。各地域の水に関する情報センターの設立を提言する。中国では、10年前には規制はゆるやかだったが、SEPAは西部の水質規制をどのようにしているのか。

中国(Jing Guo)：1996年から、地方政府が水質規制を強化し、排水する会社の規制をはじめた。

UNEP(名執)：UNEPが支援している。GIWA(Global International Water Assessment)は、4年間のプロジェクトで、水質、水量の情報収集を行い政策立案者に水資源保全のための情報提供を目的としている。現在、66のsubregionにfocal pointがあり、9つのmega regionのうちの一つをアジアのUNEP事務所で支援している。ペシコフ氏の提案した、水質の国際ネットワークについてGIWAは協力したい。

日本(田口)：新潟県の水質汚染規制担当の小柳さんを紹介する。日本の地方自治体の情報が知りたい場合は、彼と直接コンタクトしてほしい。

第3セッション「特別保護区ネットワークの拡大と保護区管理の改善」

セッション議長：Dr. Andrei Peshkov

【発表者】

中国	内モンゴル自治区環境保護局課長代理	Mr. Hong Yong
韓国	韓国消費者保護市民同盟エグゼクティブ・ダイレクター	Ms. Kim Jai Ok
日本	環境庁自然保護局国立公園課計画係長	番匠 克二
ロシア	ロシア連邦自然保護研究所所長	Dr. Andrei S. Peshkov
モンゴル	自然環境省環境保護庁保護地域局課長	Mr. D. Myagmarsuren

議長(Peshkov)：第三セッションは、天然資源のネットワークの拡大と人材養成について

の質疑応答をする。自然保護事業は、どのようなセッションで行っているのか。

中国：中国では、持続的な発展ができるような自然保護事業は、地方行政が行っている。
議長：NEACの提案を実施するためには、資金が必要なので、次回はUNの財政担当者を呼ぼう。

韓国(Kim)：今年6月、ESCAPとUNEP後援のワークショップがソウルで行われ、有用な情報がもたらされた。11のプロジェクトがあり、人工衛星のデータ解析、種の保存のためのモニタリング、開発と協力、情報の共有、研究など各国のレビューが行われた。

中国：中国では、旅行者による自然保護地区の被害が深刻な問題になっている。ツーリズムと産業は重要であるが、ツーリズムと保護の関係についての経験に関しての議論と意見交換を提案する。

議長：次回のワークショップの課題として、生物多様性保護とエコツーリズムの問題を提案する。自然公園を訪れる人の多くは都市の住民である。

韓国(Kim)：今年6月に、北朝鮮と自然保護の会議を行ったが、NEACに北朝鮮を入れてほしい。

日本(田口)：このセッションを超える問題なので別のところで議論すべきであろう。

モンゴル(Suren)：ロシア、中国、モンゴルの移動性の動物の越境問題については、1997年以後調査が進んでおり、①トランスバウンダリーな問題に対する相互協力による保護が必要。②ロシアのDauriyaネットワークのサポート及び国際協力が必要である。

モンゴル(Tugubaataa)：保護に関しては、全てのドナー国による人材養成プログラムが必要である。

UNEP(名執)：湿地と渡り鳥の保護については、UNEPがサポートするAnatidaeネットワーク(東アジア地域ガンカモ類重要生息地ネットワーク)があり、北海道でワークショップが開かれた。

韓国(Kim)：モンゴルから要請があれば協力できる国際機関はあるだろう。日本と韓国は保護地区についての協力は行う。

モンゴル：渡り鳥の保護は、モンゴルのみでなく全ての国の問題であろう。

議長：プロポーザルはドラフティングミーティングにまわす。

韓国(Kim Jai Ok)：中国のツーリズムに協力する。政策、法規制などの整備が必要と思う。エコツーリズムはNGOと政府の戦略が異なるので問題を詳細に議論する必要がある。

議長：現在でも環境に対する負荷はおおきくなっている。政府主体のネットワークはあるが、どのようにこのネットワークを使うか、NGOを加えるかが問題である。今日の参加者もほとんど政府の代表である。

日本(加藤)：私は個人で参加しているつもりである。水鳥ネットワークは3つあり、北東アジアクリーンネットセンター、名執氏の説明した現在実施中の渡り鳥に関するAnatidaeネットワーク、これから実施するネットワークセンターである。エコシステムマネジメントとCapacity BuildingはNGOと政府の緊密な関係が必要であり、NGOの協力なしにはできない。NGOを会議に招待するだけでなくプロジェクトに

参加してもらうのがよい。

韓国(Kim Choony)：種の保護については、エイリアン種と在来種についての情報が必要。
UNEP(名執)：UNEPには、今の所、エイリアン種に関する情報はない。次回のNEACの
会議で生物多様性保護とエイリアン種に関するテーマをとりあげるなら情報を提供
する。

第4セッション「北東アジアの環境協力のレビューと将来像」

セッション議長：Han Gee Bong

【発表者】

中国	国家環境保護総局上級プログラム・マネージャ	Mr. Jing Guo
韓国	環境部国際協力課課長代理	Mr. Lee Chang Heum
日本	環境庁地球環境部環境協力室環境専門員	岩谷 智子
モンゴル	自然環境省国際協力局上級オフィサー	Mr. Eldev-Ochir Erdenebat
ロシア	ロシア連邦自然保護研究所所長	Dr. Andrei S. Peshkov
日本	名古屋大学法学部大学院国際開発研究科教授	加藤 久和

ロシア(Peshkov)：① 中国、モンゴル、ロシア、韓国4国の国境を超えた保護地区の設定、
② 水質汚濁のモニタリングネットワークの確立を提案する。我々は、既に9年も共
通の仕事をしているのでフレームワークをつくるべきである。

韓国(Han Gee Bong)：北朝鮮とNGOがNEACに参加する問題について検討されたい。

中国：韓国提案のガイドライン、NEACの役割、フレームワークに賛成である。新たな国
の参加、技術に関する交流の提案については、コンセンサスが必要だ。

ロシア(Peshkov)：議長サマリーに、① 水質汚濁モニタリングネットワーク及び② 保護
地区ベルトを追加してほしい。

議長：ロシアの2つの提案を議長サマリーに入れることにする。

モンゴル：NEACを評価すべき時期であろう。NEACの役割に対する地域内での認識の違
いがある。次の会議までにNEACの目的についてドラフトを作成し、10年目の会
議でまとめてはどうか。

議長：つぎのミーティングまでにフレームワークを作る。

韓国(Kim)：それはモンゴル政府及び韓国政府のどちらが行うのか。

モンゴル：作業については、①モンゴルが作成する。②韓国が作成する。③モンゴルと韓
国2国共同で作成するという、3通りの方法があるだろう。

議長：韓国側がモンゴルとコンタクトしながら最終案を作成することでどうか。

ロシア(Peshkov)：必要に応じインターネットを活用し、ファイナルレポートとフレー
ムワークは、ドラフトを韓国とモンゴルで作成し、各国に提出することでよいだろう。

中国(Jing Guo)：韓国の提案に中国は協力する。

日本(田口)：フォーカルポイントはどこにするのか、意見や考えをどちらに提出すればよ
いか。

議長：両方に提出するようにし、韓国にモンゴルが協力して取りまとめる。

韓国(Kim Choony)：NEACはオープンで、NGO、研究者、自治体が参加し、経験を共有することが必要である。我々NGOは、10年にわたりこのような活動をしてきた。

UNEP：政府間会合である NEASPEC に比べ、NEAC は、オープンな国際的会合で、テーマもフレキシブルで、NGO、研究者、自治体が参加している。

議長：その他の意見はないか。

日本：韓国の提案する"Framework of NEAC"を議長サマリーのアネックスとする。韓国の提案について、次の NEAC で討議の機会があり、ファイナライズできるだろう。

ロシア：フレームワークについては、公式なものとなるものであり、さらに討議されるべきである。フォーカルポイントは、国内での連絡を行う義務がある。第4セッションで論議されたのは、NEAC の枠組みである。次に開かれる NEAC が 10 周年となるので、ここで NEAC の役割と枠組みを明確にするチャンスである。

議長：次回の議題は、今後詳細をつめることとする。

モンゴル：基本的に韓国に賛成である。